

平成 21 年 11 月 21 日
明日香村教育委員会

明日香村発掘調査報告会

2009

開 会 1:00~

調査報告 1:10~

「檜前遺跡群の調査—掘立柱建物群を中心に—」高橋幸治

「檜前遺跡群の調査—大壁遺構を中心に—」長谷川透

「阿部山遺跡群の調査」西光慎治



(檜前遺跡群・大壁遺構)

檜前遺跡群の調査

—掘立柱建物群を中心に—

明日香村教育委員会

調査地：奈良県高市郡明日香村大字檜前
調査原因：近隣公園整備事業に伴う発掘調査
調査面積：約 925 m²
調査期間：2009年5月～現在継続中

1. はじめに

今回の調査は近隣公園整備に伴う発掘調査である。檜前遺跡群は壁画古墳であるキトラ古墳からは約 450mの距離、檜隈寺がある丘陵部の南側、谷を一つ挟んだ丘陵頂部の平坦面に所在する。

近辺の遺跡では、檜前脇田遺跡から縄文時代草創期の有茎尖頭器が出土しており、この地域における人間活動の初源を示している。丘陵北東には弥生時代中期の土坑や古墳時代の竪穴式住居が検出された御園アライ遺跡、古墳時代の流路が検出されている檜前タバタ遺跡などがある。檜前遺跡群の発掘調査は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区の建設に伴う発掘調査として 2007 年度に開始され、奈良文化財研究所、奈良県立橿原考古学研究所、明日香村教育委員会の三者がそれぞれ地区ごとに調査を行っている。これまで村教委の行った調査では、今回と同じ尾根上で7世紀後半を中心とした掘立柱建物群が検出されており、今回の調査でも、掘立柱建物などの遺構が検出される可能性が考えられた。

今回の調査区は、前回までの調査区の西北西にあたる場所に設定した。調査区は1～5区を設定し、調査区総面積は約 925 m²となる。

2. 主な検出遺構

今回の調査では掘立柱建物 12 棟、掘立柱塀 4 条を検出した。遺構が検出されたのは1区および4区である。以下検出された遺構について概要を述べる。

1 区

1 区で検出した建物群は、全て中世のものである。

塀① 東西 2 間分を検出した。柱掘形の平面プランは円形もしくは不整形円で、一辺が 20～30cm を測り、深さ約 20cm である。柱痕跡は残存部分で径 8～10cm である。柱間は心々で 210cm を測る。柱のいくつかは抜取がおこなわれている。

建物② 南北 2 間以上×東西 3 間の建物である。柱掘形の平面プランは円形もしくは不整形円で、径約 25～30cm を測り、深さ約 20cm である。柱痕跡は 10～15cm で、柱間は

心々で 200～210cm を測る。調査区外南側へ展開する可能性も考えられる。

塀⑬ 東西 3 間分を検出した。柱掘形の平面プランは円形もしくは不整円形で、径 17～30cm である。深さ約 20cm を測る。柱痕跡は残存部分で、径 10～12cm、柱は抜取がなされているものもある。柱間は心々で 180～210cm であった。調査区外南側へ展開する可能性がある。

塀⑭ 東西 3 間分を検出した。柱掘形の平面プランは円形もしくは不整円形で、径が 20～27cm を測り、深さ約 25cm である。柱痕跡は残存部分で、径 10～14cm を測る。柱間は心々で 200cm である。調査区外南側へ展開する可能性がある。

建物⑮ 南北 2 間以上×東西 3 間以上の建物である。柱掘形の平面プランは円形もしくは隅丸方形で、径が 30～40cm を測り、深さ約 25cm である。柱痕跡は残存部分で、径 12～17cm を測る。柱間は心々で 180～220cm である。調査区南側へ展開する可能性がある。

4 区

4 区では、7 世紀後半代と中世の建物群を検出した。7 世紀後半代の建物には、建物①～⑥がある。建物⑦～⑩は中世の建物と考える。

建物① 調査区東辺で検出した南北 4 間以上×東西 2 間の建物で、さらに南へ伸びていた可能性がある。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、掘形 60～85cm を測り、深さ約 20～50cm である。柱痕跡は 20～25cm で、柱間は心々で 210cm を測る。間仕切があった可能性がある。

建物② 建物①の西側で検出した南北 2 間以上×東西 2 間の建物である。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、一辺が約 30cm、深さ約 20～40cm である。柱痕跡は残存部分で、径 15cm を測る。柱間は心々で 135～150cm であった。

建物③ 建物②の西側で検出した南北 4 間以上×東西 2 間の建物である。南側および東西の、少なくとも三面に庇がつく建物であるが、調査区北側へ続いていることから、四面庇建物になる可能性もある。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、一辺が 60～70cm を測り、深さ約 30cm である。柱痕跡は残存部分で、径 20cm を測る。柱間は心々で 165～195cm であった。

建物④ 建物③の西側で検出した南北 2 間×東西 3 間以上の建物である。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、一辺が約 50cm を測り、深さ約 80cm である。柱痕跡は残存部分で、径約 25cm を測る。柱間は心々で 135～150cm であった。

建物⑤ 建物④の南西側で検出した南北 3 間×東西 2 間以上の建物である。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、一辺が約 70cm を測り、深さ約 30cm である。柱痕跡は残存部分で、径 20cm を測る。柱間は心々で 135～150cm であった。

建物⑥ 建物⑤の西側で検出した建物である。南北 3 間以上×東西 2 間分を検出した。柱掘形の平面プランは、隅丸方形で、一辺が約 60cm を測り、深さ約 30cm で検出している。柱痕跡は残存部分で、径 20cm を測る。柱間は心々で 150～180cm であった。

建物⑦ 調査区中央南寄りで検出した南北2間×東西9間の建物である。柱掘形の平面プランは不整形で、一辺が20～30cmを測り、深さ約25cmである。柱痕跡は残存部分で、径約10cmを測る。柱間は心々で200cmであった。

建物⑧ 調査区西側付近で検出した南北4間×東西3間の建物である。柱掘形の平面プランは隅丸方形で、一辺が約40cmを測り、深さ約30cmである。柱痕跡は残存部分で、径15cmを測る。柱間は心々で約180cmであった。

建物⑨ 調査区北西隅で検出した南北3間×東西2間の建物である。柱掘形の平面プランは不整形で、一辺が20cmを測り、深さ約20cmである。柱痕跡は残存部分で、径約10cmを測る。柱間は心々で約130cmであった。

建物⑩ 建物⑨の西側で検出した南北3間×東西2間の建物である。柱掘形の平面プランは不整形で、一辺が約30cmを測り、深さ約30cmである。柱痕跡は残存部分で、径約15cmを測る。柱間は心々で120～170cmであった。

3. 主な出土遺物

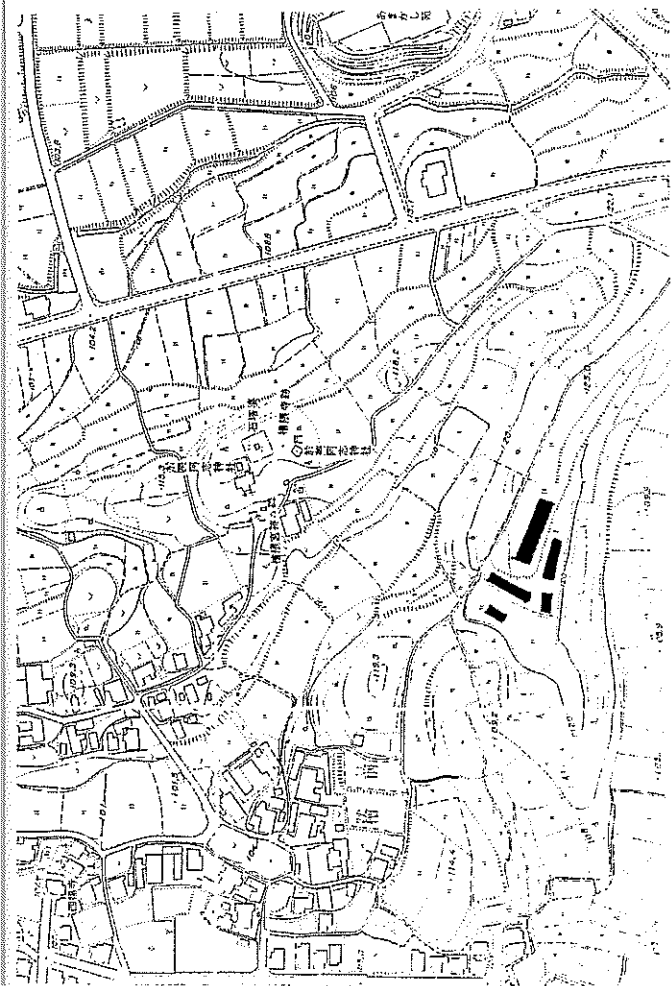
今回の調査では、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶器、瓦、石材などが出土した。

4. まとめ

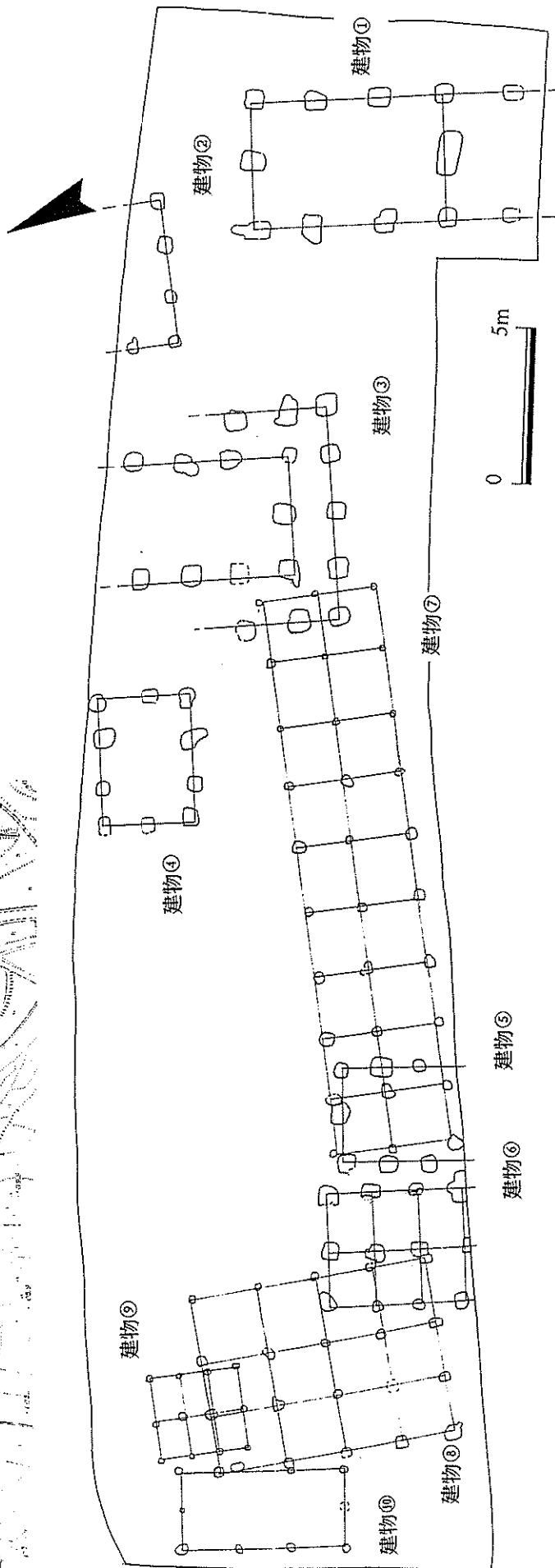
今回は、4カ所の調査区を設けて調査を行った。その結果、7世紀後半の掘立柱建物群ならびに中世の掘立柱建物群を検出した。昨年度の調査によって、調査区東側において掘立柱建物群を検出しており、今回の建物群との関連性が窺える。

今回の調査地が前回の調査地よりもさらに西側に位置することから、7世紀後半の建物群の範囲は東西約160m、南北約40mと推定されるようになった。また、地形的にみた場合、昨年調査区よりも今回の調査区の方が平坦面を確保できる立地であることから、遺跡の中心は今回の調査地周辺と考えられる。その中でも建物③は少なくとも三面に庇の付く建物で、この遺跡の中では中心的な建物であった可能性がある。

遺跡の性格については、昨年の調査同様に、瓦の出土が少なかったことなどから、檜隈寺の造営と時期は重なるものの、寺院に直接かかわる施設とは考えにくい。庇付建物や間仕切のある建物があることから、居住空間として利用されていたことが考えられる。檜隈寺の伽藍が整う頃、ほぼ同時期に寺のすぐ南側、丘陵頂部の平坦面を利用して建物が建てられていることから、今回検出された建物群は、当時の檜隈地域を本拠とした東漢氏との関連性が注目される。



調査地位置図



遺構模式図(S=1/200)

檜前遺跡群の調査

－大壁遺構を中心に－

明日香村教育委員会

調査地：奈良県高市郡明日香村大字檜前・阿部山・大根田

調査原因：国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区整備事業に伴う発掘調査

調査面積：約 270 m² (D-15 区)

調査期間：2009 年 6 月 8 日～現在継続中

1. はじめに

明日香村教育委員会は、国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区整備事業に伴い、平成 19 年度から発掘調査を実施しており、今年はその 3 年目にあたる。

調査区の立地する丘陵上は、平成 20 年度に発掘調査が行われ、丘陵平坦面に飛鳥時代の掘立柱建物群が検出された。この成果を受け、周辺にも飛鳥時代の遺構が広く展開することが予想され、檜前遺跡群と命名された。平成 21 年度は、事業範囲内で丘陵上における未調査地に調査区を設定し、発掘調査を行った。今回、その中の D-15 区において飛鳥時代の遺構がまとまって検出されたので、ここで報告する。

2. 主な検出遺構

調査区で検出した主な遺構は、大壁遺構、建物 2 棟、塀 1 条である。

大壁遺構 大壁遺構は、逆 L 字状と直線状の 2 つがある。逆 L 字状は、現在長で南北 10m、東西 7m 以上を測る布掘り溝である。この溝は、幅 40～70 cm、深さ 40 cm を測り、断面形は方形であるが、一部逆台形状や V 字状をなす。溝を半裁して土層断面を確認したところ、黒色粘質土の柱抜き取り痕跡が褐色の溝埋土を切りこんでいる。この柱抜き取り痕跡は、大きさが径 20 cm 前後でおよそ 25～60 cm と不ぞろいで並んでいた。これは、いわゆる大壁造建物の下部構造によく認められる溝の埋土を柱痕跡が切っている状況とよく似ている同じである。溝の南端は後世の削平により失われており、延長するか直角に屈曲するかは不明である。東西辺についても調査の制約上、延長部を確認できなかった。溝全体の平面形と規模は確定できないが、土壁構造とコーナー部の有無から大壁造建物の可能性も考えられる。

一方、直線状の布掘り溝は、逆 L 字状溝の東西辺から南へ 170 cm の平行するように位置する。長さ 4m、幅 40 cm、深さ 40 cm を測り、断面形は長方形である。この溝は、大壁遺構の南北辺から 1m 離れた距離から始まり、4m の長さで途切れる。溝埋土は上下 2 層から

なり、この2層ともに柱痕や柱抜き取り痕跡は確認できなかった。おそらく抜き取りによって失われたと考えられる。この溝は、大壁とは埋土の様相が異なるものの、逆L字状の溝に平行し、なおかつ同じ布掘り工法であることから、前述した逆L字状の溝と一連の遺構と考えられる。

建物1 南北2間、東西3間の掘立柱建物である。柱掘形は60～95cmの隅丸方形で、柱痕跡は径20cmを測る。柱間は心々で東西210cm、南北210cmである。屋内の柱穴については、外回りの柱穴と柱筋をそろえ、掘形規模や柱間もほぼそろえよう。総柱建物にみえるが、調査区外の西側に延長する東西棟の床束建物の可能性も考えられる。

建物2 南北2間、東西2間の掘っ立て柱建物である。柱掘形は40cmの不定形である。柱穴の切り合い関係は、建物1を切っており、それより新しい時期の建物と考えられるが、遺物が出土せず、時期は特定できない。

塀1 建物1の南妻側に平行する掘立柱塀である。建物1の南側柱心々間で210cm離れて平行する。柱掘形は60～70cmの隅丸長方形で、柱間は210cmである。建物1に比べて柱掘形が小さく、庇の可能性もあるが、建物1の南側柱に柱筋をそろえる塀と考えられる。

3. 出土遺物と遺構の時期

調査区全体では、土師器・須恵器・瓦器・磁器がコンテナ1箱分出土している。

大壁遺構から土師器と須恵器が出土している。布掘り溝の上層（廃絶に伴う堆積土）から7世紀中頃の特徴である須恵器杯蓋が出土し、大壁遺構は7世紀中頃を下限とする時期の遺構と考えられる。

建物1の柱穴検出時には7世紀後半の須恵器杯蓋が出土している。これまでの檜前遺跡群の成果や近隣公園の遺構群から判断して、建物1や塀1を含む掘立柱建物群は7世紀後半頃の時期と考えられる。

これらの検討から、大壁遺構と掘立柱建物には時期差を認めることができる。大壁遺構と建物柱穴は距離的に近接しており、同時期の一連の構造物とも考えにくい。よって、大壁遺構が先行して存在し、大壁遺構廃絶後、位置を踏襲しながら掘立柱建物として新たに建て替えていると考えられる。

4. 大壁遺構とは

大壁遺構は、方形または長方形の平面形を呈し、断面形が方形や逆台形の布掘りによる囲溝を掘り、その溝の中に柱を立てて壁を造る建物である。柱自体は、土壁に塗りこめられ外から見えない構造となる。大壁の下部構造は、溝と主柱と間柱からなる。大壁構造の建物自体は遺存しにくいいため、考古学では地中に残る下部構造やその痕跡の検討が中心となる。そのほかにも、柱などの部材や壁材、出土遺物など総合的に検討を行う。

大壁建物は5世紀から8世紀にかけ、近畿を中心に分布し、東は長野県、西は鳥取県・大分県に及ぶ。その多くは6世紀後半～7世紀前半の滋賀県大津市周辺で確認されている。

一方、韓国では5世紀後半から7世紀前半の忠清南道公州・扶余の百濟地域に多いといわれている。

奈良県内では、御所市の南郷遺跡や隣接する高取町などで確認されている。近年では、明日香村から高取町にかけて広がるホラント遺跡、同町の観覚寺遺跡や清水谷遺跡、羽内遺跡などの出土事例が増えている。なかでも、観覚寺遺跡は、檜隈遺跡群から一尾根を越えて南東へ約750mと距離的に近いところにある。このように大壁建物やオンドル遺構は檜隈縁辺部に多いことがこれまでの調査でわかっている。

5. 大壁遺構と集落構成

集落内において大壁建物は、単独で立地する場合や竪穴住居や掘立柱建物とセットで存在する例がある。類例の大半は、集落内で同時期には一棟しか存在しないが、渡来系集落の指標となる滋賀県穴太遺跡では同時期に複数棟存在する。その穴太遺跡において、ある大壁建物は、同位置で何回か建て替えられ、その後、掘立柱建物に変化する例がある。檜前遺跡群のように、集落内において、大壁遺構から掘立柱建物へ遺構が変遷する例は決して珍しいわけではない。

檜前遺跡群全体では、大壁遺構は1基分を検出したのみである。現段階では、大壁遺構自体の建て替えは認められず、丘陵上大壁遺構と同時期の遺構や遺物が他には認められない。

6. 成果とまとめ

・檜隈地域の中心域での大壁遺構の検出

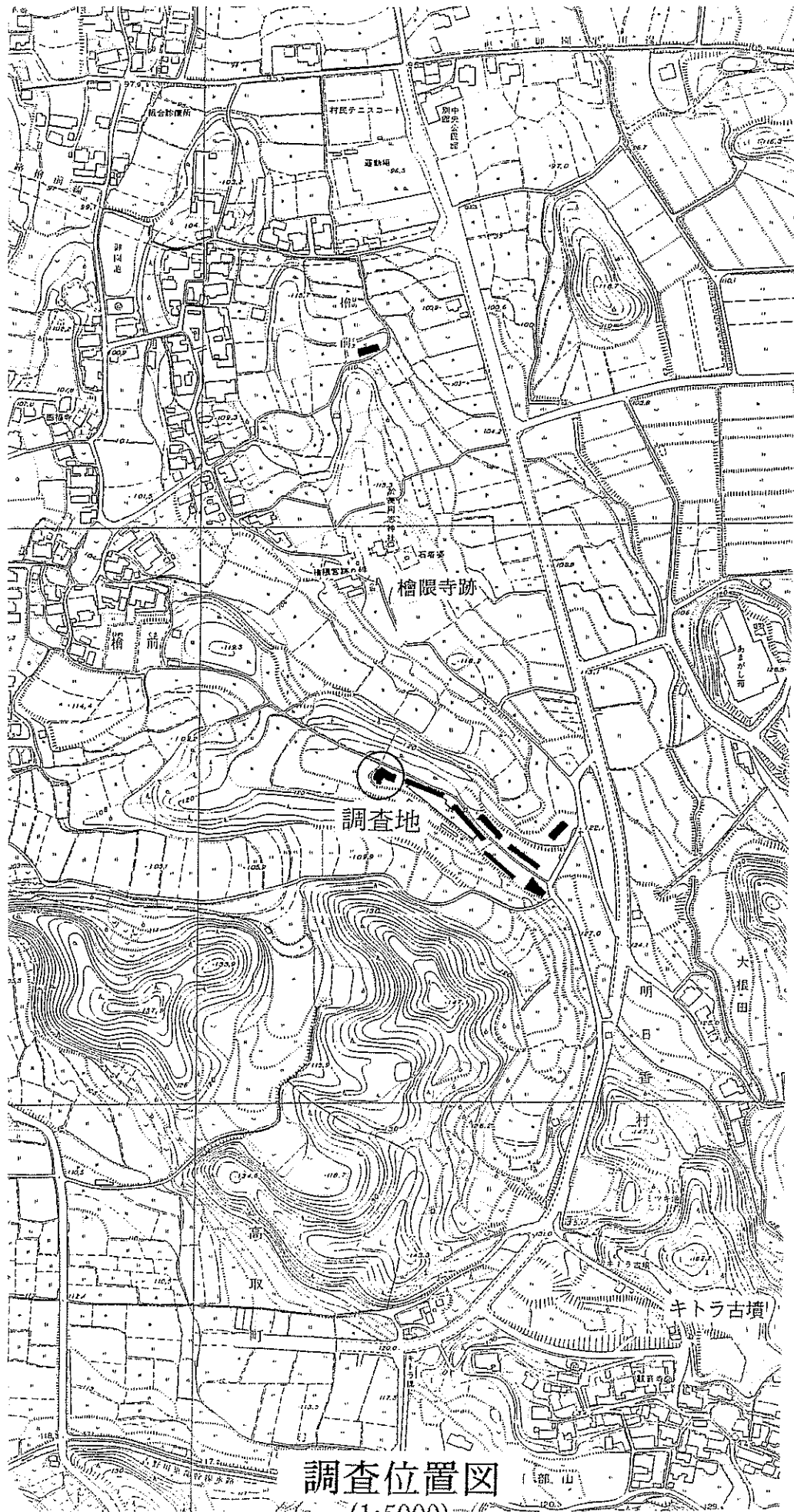
これまで檜隈縁辺部で大壁建物が確認されていたが、檜隈中心域に大壁建物に類する大壁遺構がはじめて検出された。これまで大壁遺構は古代檜隈地域の周辺部において多数検出されていたが、今回の檜前遺跡群で検出されたことによって、檜隈の中心地においても渡来系の技術を備えた遺構が存在していたことが明らかとなった。

・L字形カマドに続く渡来系を示す遺構

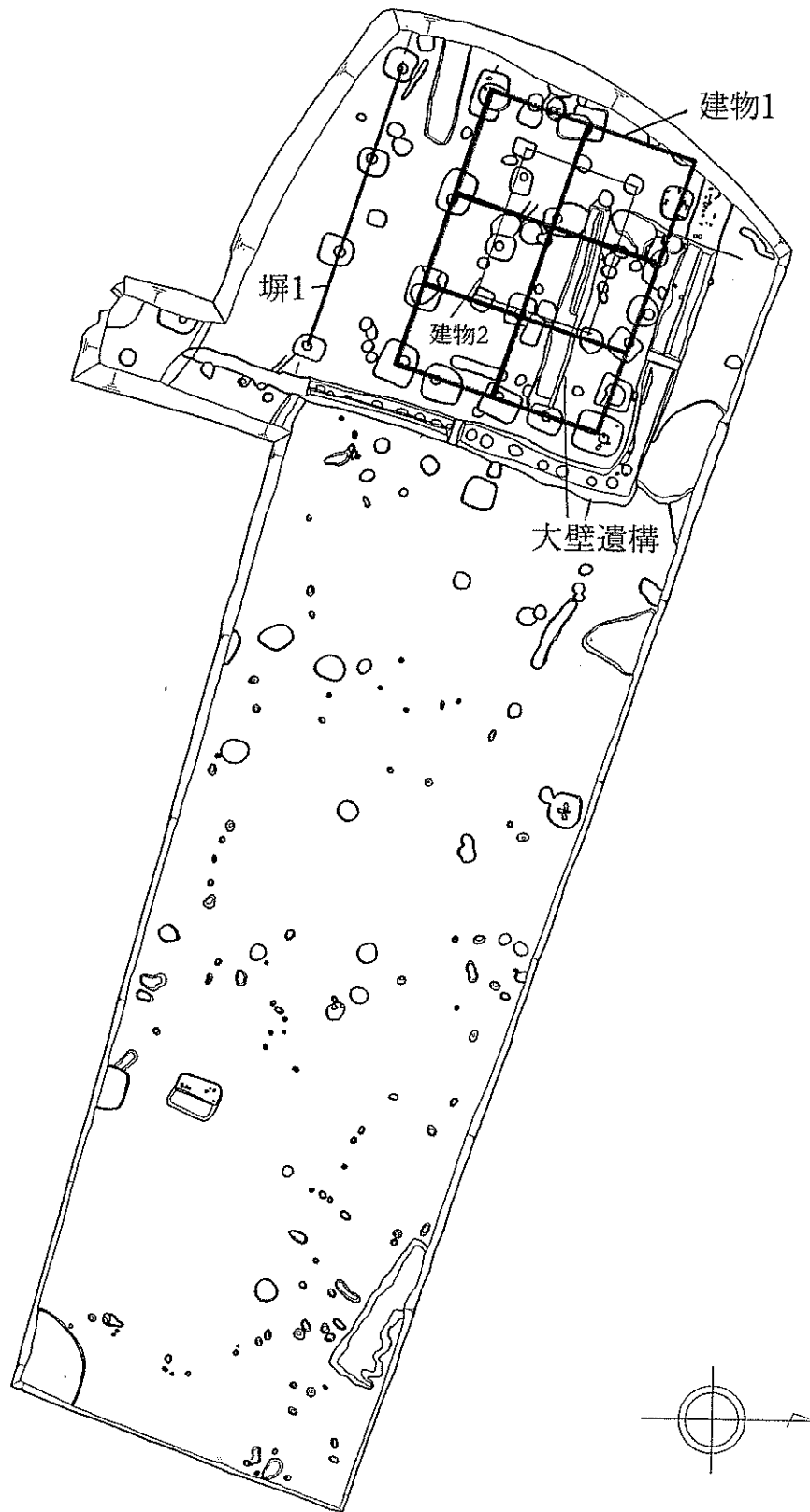
大壁遺構は、檜隈寺の北西で検出されたL字形カマドと時期的に近接し、なおかつ、同じ渡来系の技術による遺構である。遺跡の立地する当地域は檜隈と呼ばれ、渡来系氏族東漢氏の本拠地とされる地域である。檜隈地域と渡来系集団とのかかわりを裏付けるといえるだろう。

・大壁遺構から掘立柱建物へ

大壁遺構は、7世紀中頃には廃絶し、7世紀後半以降は位置を踏襲するように掘立柱建物に建て替えられる。7世紀前半頃までは檜隈中心域にも渡来系の遺構が広がっており、7世紀後半代には、檜隈寺伽藍の本格整備にともない、この丘陵上平坦面を利用するかたちで、居住に伴う掘立柱建物群による土地開発がおこなわれると考えられる。



調査位置図
(1:5000)



遺構平面図(S=1/150)

阿部山遺跡群の調査

明日香村教育委員会

調査地：奈良県高市郡明日香村大字阿部山

調査原因：範囲確認調査

調査面積：約 500 m²

調査期間：第 1 次 2008 年 5 月 12 日～12 月 24 日(担当者、西光慎治)

第 2 次 2009 年 4 月 20 日～ 8 月 31 日(担当者、西光慎治・長谷川 透)

1. はじめに

今回の調査はキトラ古墳の南方に広がる丘陵上において遺跡の有無を確認することを目的とした範囲確認調査である。丘陵地一帯はこれまで発掘調査が行われたことがなく、遺跡の空白地となっていた。周辺部には極彩色の壁画で有名なキトラ古墳をはじめ、大壁遺構や飛鳥時代の掘立柱建物が検出された檜前遺跡群、方形池やオンドル遺構が検出された観音寺遺跡、ミニチュア土器や簪(かんざし)、銀釧等が出土した稲村山古墳などが点在している。阿部山遺跡群については、これまで奈良県立橿原考古学研究所や明日香村教育委員会による分布調査が行われ、古墳状隆起や遺物散布地が確認されるなど、遺跡の存在が高まっていった。

2. 主な検出遺構と出土遺物

【カイワラ地区】

高取山から派生した尾根筋から、更に南北に伸びる丘陵の頂部に位置している。

カイワラ 1 号墳

墳丘は一辺約 11m の方墳である。埋葬施設は南に開口する右片袖の横穴式石室である。石室の大半は石取りのため大半は失われている。石室規模は全長約 5 m 以上で玄室長は約 3.2m、幅 1.8m、羨道長 1.7m、幅約 0.9m を測る。石室内からは土師器、須恵器、ミニチュア土器(甗・甗)、馬具、銀釧、鉄釘が出土している。遺物の大半は奥壁側と羨道側に偏っているものの、石取りによる攪乱もあって原位置をとどめていない。一部の鉄釘は原位置をたもっているが全体としては不揃いであり、棺位置は復元できない。しかし、鉄釘が 26 本以上確認でき、二棺分の木棺が埋葬されていたと考えられる。築造年代は 6 世紀中頃と考えられる。

カイワラ 2 号墳

カイワラ 1 号墳の南に隣接して築かれた東西 10m、南北 11m の方墳である。埋葬施設は南に開口する全長約 5.6m の右片袖の横穴式石室である。石室の石材は石取りのため大半は失われている。石室規模は玄室長約 3.5m、幅約 1.7m、羨道長約 2.1m、幅約 0.8m を測る。

石室内からは土師器・須恵器・ミニチュア土器(竈・羽釜・釜)、馬具、鉄釘が出土している。遺物の大半は奥壁と東壁に沿って出土している。鉄釘の出土状況から玄室中央に一棺埋葬されていたものと考えられる。築造年代は6世紀中頃～後半と考えられる。

火葬墓

カイワラ1号墳の埋葬施設から約1.6m南の地点で検出したもので、地山面に墓壙をほり、その中に火葬骨を入れた羽釜を埋納している。墓壙上面には30×40cm大の川原石を蓋石として使用している。この石材は1号墳の石室材を転用しているものと考えられる。羽釜内部には火葬骨を納め、その上に被せるように白磁椀を二枚重ねて納めている。火葬骨は大半が碎片で量は少ない。火葬墓に隣接した場所から瓦器椀や集積した土師皿も出土しており周辺部にも中世墓が存在する可能性が考えられる。

【シモクラ地区】

天満神社から派生する南北に伸びる丘陵の頂部に位置している。

木棺墓1

墳丘は地山を削りだし整形した一辺約4mの方形状を呈しており、周囲には幅約1mの区画溝を巡らせている。埋葬施設は墳丘のほぼ中央に南北4.5m、東西約3.5mの墓壙を穿ち、そこに長さ約1.6m、幅約0.8mの木棺を安置している。棺内からは龍泉窯系青磁椀、土師皿、鉄釘などがある。更に棺内からは人頭大の川原石が出土しており、木棺蓋上に設置されていた石材と考えられる。造営時期は12～13世紀代と考えられる。

木棺墓2

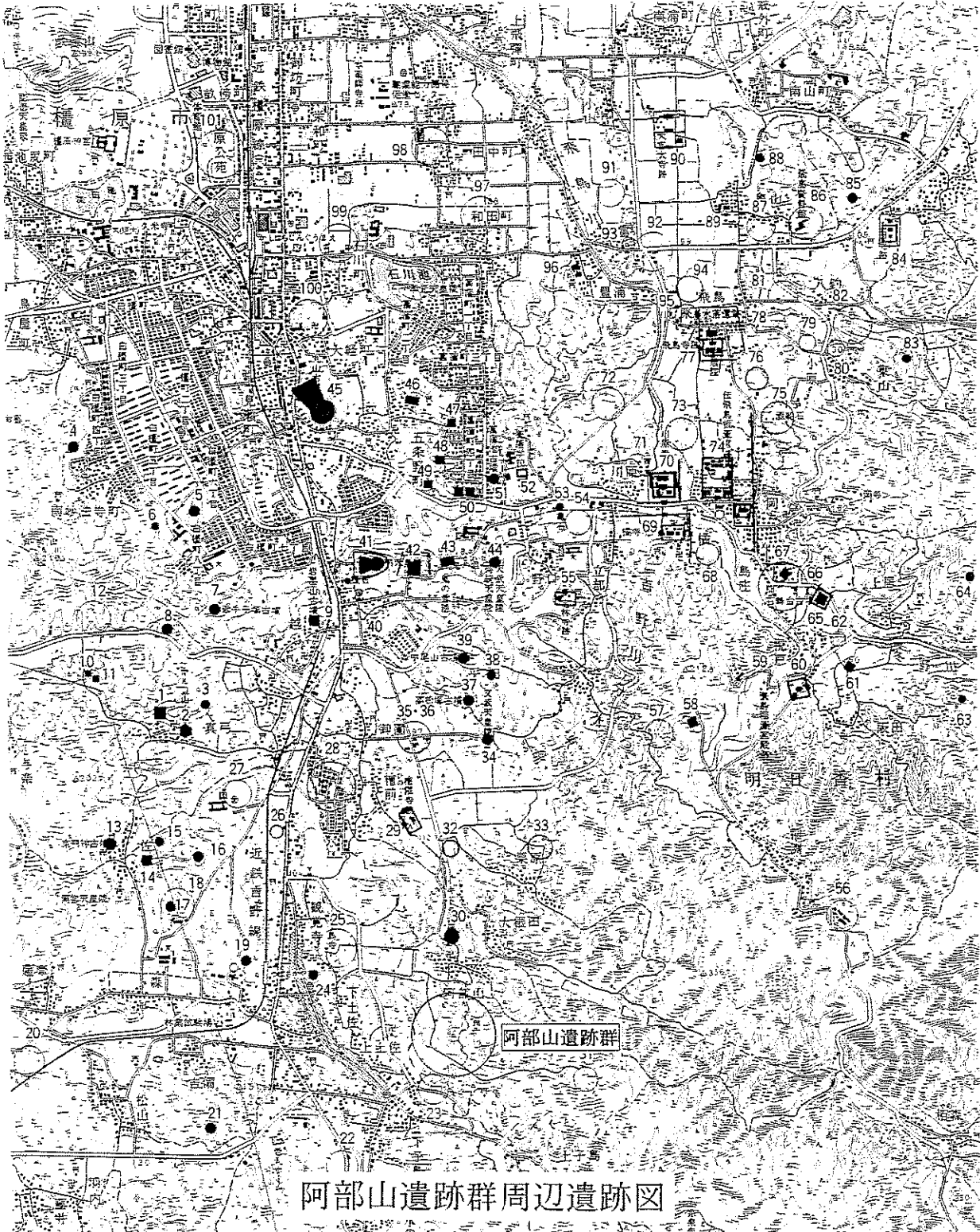
地山面に長さ1.5m以上、幅約1.5mの墓壙を穿ち、そこに長さ0.7m以上、幅約0.8mの木棺を安置している。埋葬施設は削平や木棺墓1によって大半が失われており、詳細は不明である。出土遺物はなし。

木棺墓3

地山面に長さ約3.5m、幅約2mの墓壙に長さ約2m、幅約0.8mの木棺を安置している。棺内は未調査のため詳細については不明である。出土遺物はなし。

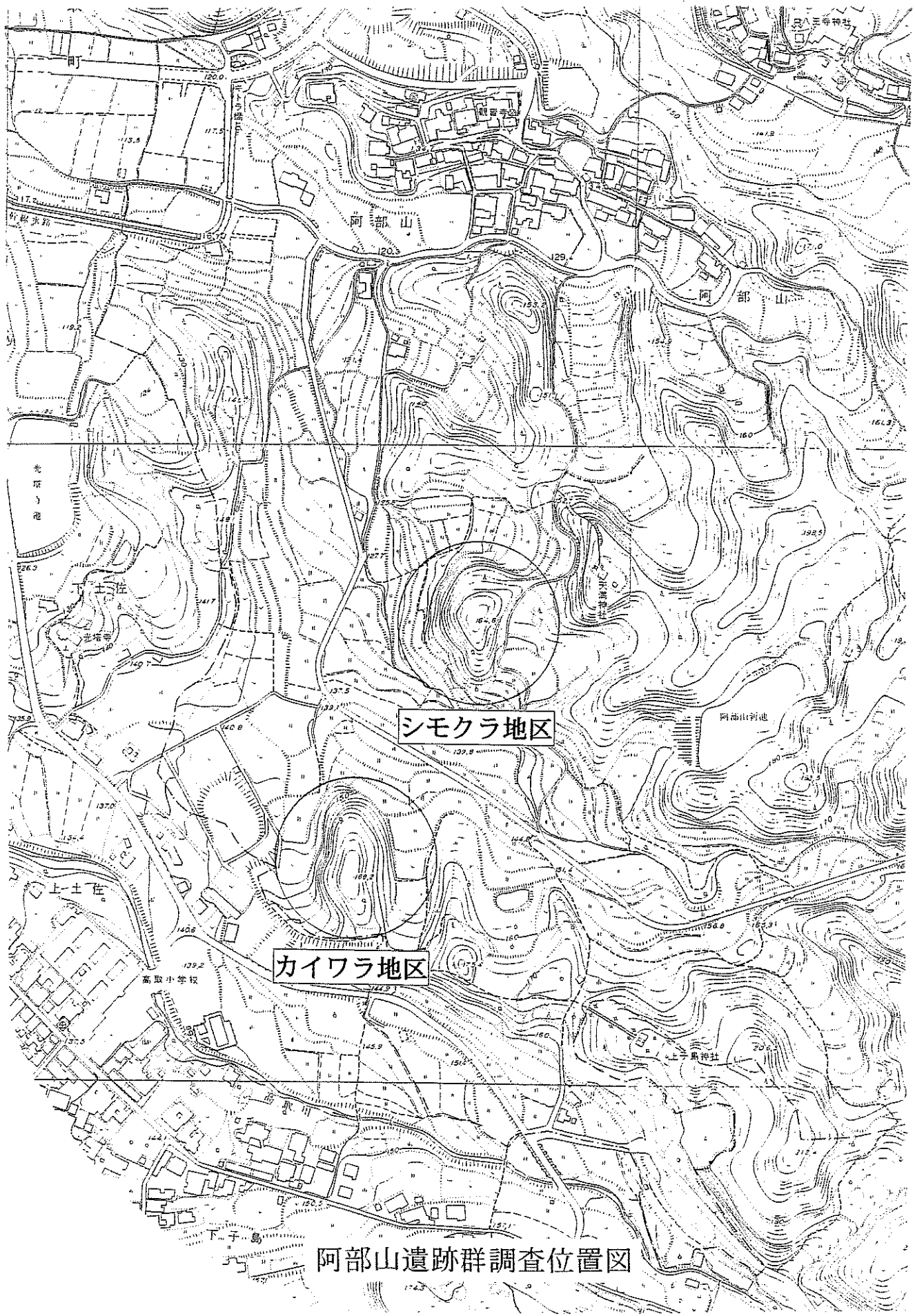
3. まとめ

今回の調査ではキトラ古墳の南方に広がる丘陵地で6世紀代中頃から中世にかけての墳墓を検出することができた。特にカイワラ1・2号墳からは渡来系要素を含むミニチュア土器(竈・甌・釜)をはじめ銀釧などが出土しており、これまで渡来系氏族の墓域とされる貝吹山南麓に展開する古墳群や細川谷古墳群よりも早い段階から檜隈地域周辺に渡来系氏族の墓が点在していたことが明らかとなってきた。また龍泉窯系青磁椀を副葬した墓や火葬墓なども検出することができ今後、飛鳥地域の古墳時代から中世にかけての墓制を考える上で重要な資料となるであろう。

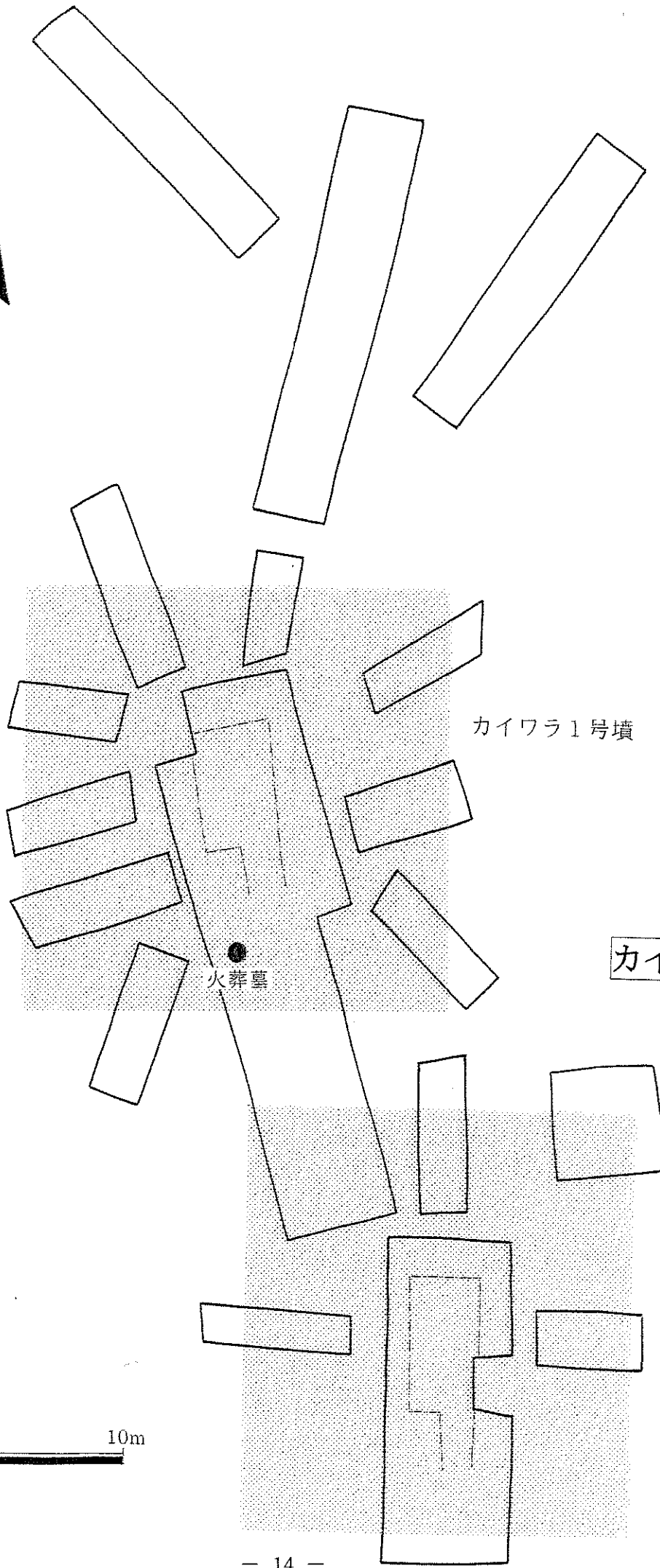


阿部山遺跡群周辺遺跡図

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----------|----|---------|----|-------------|----|---------|-----|----------|----|-------|----|----------|----|-----------|
| 1 | カツマヤマガ古墳 | 2 | マルコ山古墳 | 3 | ミツ古墳 | 4 | 小谷古墳 | 5 | 沼山古墳 | 6 | 益田岩船 | 7 | 牽牛子塚古墳 | 8 | 真弓鏡子塚古墳 |
| 9 | 岩屋山古墳 | 10 | スズミ1号墳 | 11 | スズミ2号墳 | 12 | 与楽古墳群 | 13 | 東明神古墳 | 14 | 佐田1号墳 | 15 | 佐田2号墳 | 16 | 出口山古墳 |
| 17 | 森カナン2家古墳 | 18 | 森カナン2遺跡 | 19 | 向山1号墳 | 20 | 薩摩遺跡 | 21 | 松山谷古墳 | 22 | 清水谷遺跡 | 23 | ホラント遺跡 | 24 | 稲村山古墳 |
| 25 | 観音寺遺跡 | 26 | 坂ノ山古墳群 | 27 | 佐田遺跡群 | 28 | 松前上山遺跡 | 29 | 権隈寺跡 | 30 | キトラ古墳 | 31 | 阿部山廃寺 | 32 | 松前門田遺跡 |
| 33 | 兵衛寺跡 | 34 | 塚穴古墳 | 35 | 御園チシヤイ遺跡 | 36 | 御園アライ遺跡 | 37 | 高松塚古墳 | 38 | 火振山古墳 | 39 | 中尾山古墳 | 40 | 平田キタカワ遺跡 |
| 41 | 梅山古墳 | 42 | カナヅカ古墳 | 43 | 鬼ノ組・雲隠古墳 | 44 | 野口王墓 | 45 | 五奈野丸山古墳 | 46 | 植山古墳 | 47 | 五奈野内垣内古墳 | | |
| 48 | 五奈野城福古墳 | 49 | 五奈野向イ古墳 | 50 | 五奈野宮ヶ原1・2号墳 | 51 | 菅浦池古墳 | 52 | 川原下ノ茶屋遺跡 | 53 | 龜石 | 54 | 西橋遺跡 | 55 | 定林寺跡 |
| 56 | 稲淵ムカンダ遺跡 | 57 | 朝風原寺 | 58 | 塚本古墳 | 59 | 飛鳥稲淵宮殿跡 | 60 | 坂田寺跡 | 61 | 部塚古墳 | 62 | 馬場頭古墳群 | 63 | 戎成組田古墳 |
| 64 | 打上古墳 | 65 | 石舞台古墳 | 66 | 石舞台1~4号墳 | 67 | 鳥庄遺跡 | 68 | 東橋遺跡 | 69 | 橋寺跡 | 70 | 川原寺跡 | 71 | 川原寺裏山遺跡 |
| 72 | 飛鳥京跡 | 73 | 飛鳥京跡 | 74 | 飛鳥京跡 | 75 | 酒船石遺跡 | 76 | 飛鳥池遺跡 | 77 | 飛鳥寺跡 | 78 | 飛鳥東垣内遺跡 | 79 | 小原宮ノウシロ遺跡 |
| 80 | 東山マキド遺跡 | 81 | 竹田遺跡 | 82 | 八約・東山古墳群 | 83 | 金鳥塚古墳 | 84 | 山田寺跡 | 85 | 庚申塚古墳 | 86 | 上の井手遺跡 | 87 | 奥山リウゲ遺跡 |
| 88 | カサヤ塚古墳 | 89 | 奥山久米寺跡 | 90 | 大官大寺跡 | 91 | 雷丘北方遺跡 | 92 | 雷丘東方遺跡 | 93 | 雷丘 | 94 | 石神遺跡 | 95 | 飛鳥水落遺跡 |
| 96 | 和田廃寺 | 97 | 田中廃寺 | 98 | 石川精舎 | 99 | 軽寺跡 | 100 | 権原遺跡 | | | | | | |



阿部山遺跡群調査位置図

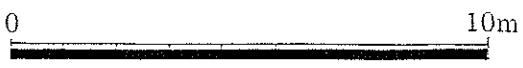


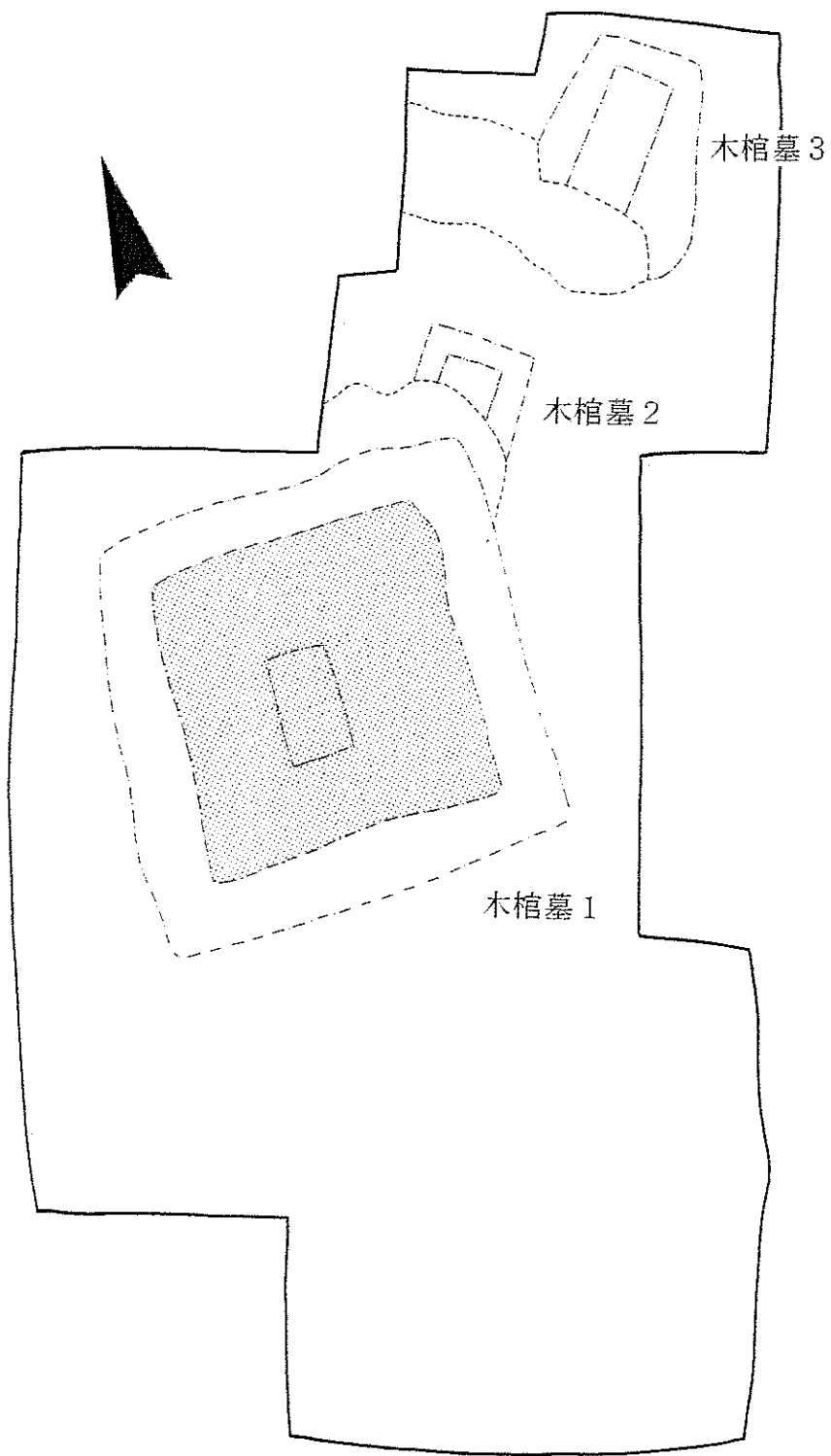
カイワラ1号墳

カイワラ地区

火葬臺

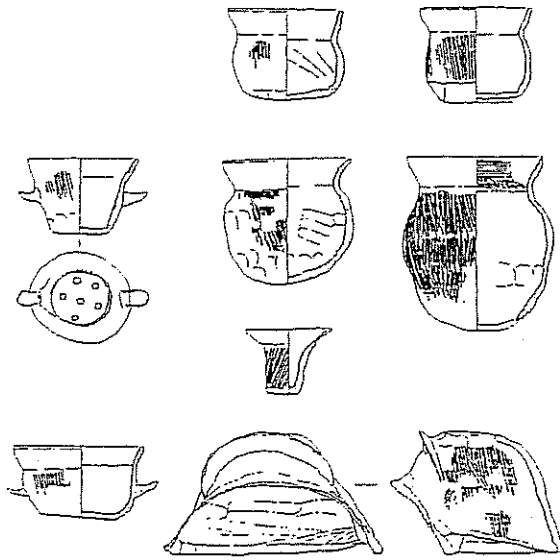
カイワラ2号墳



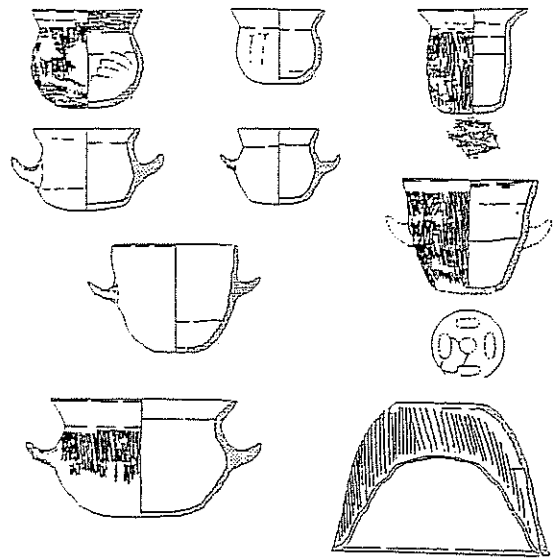


シモクラ地区

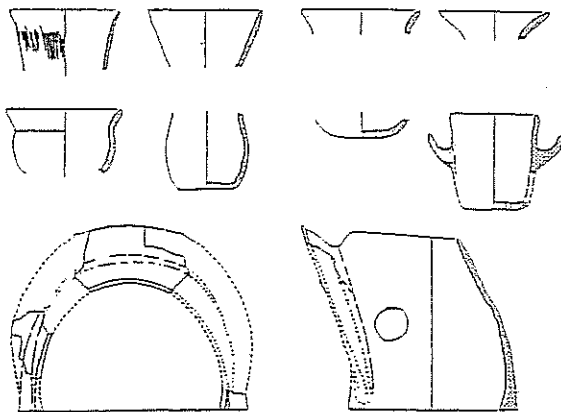
0 5m



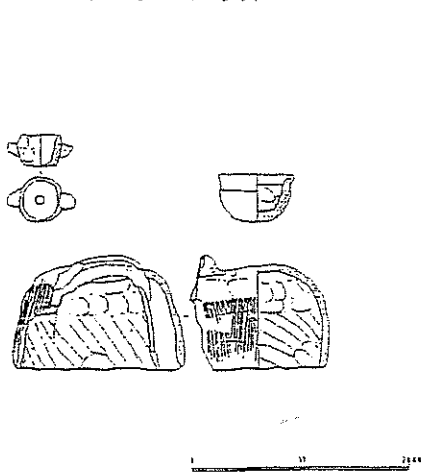
ナシタニ1号墳



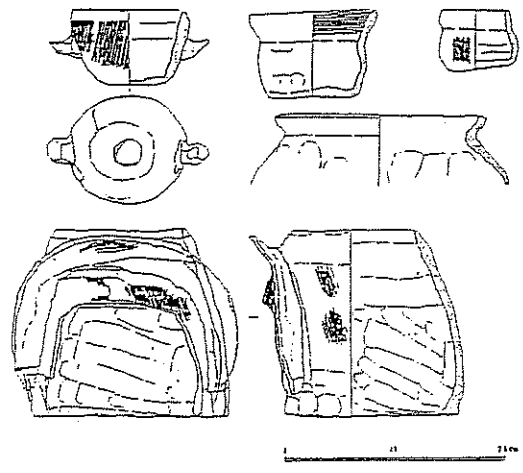
ナシタニ6号墳



ナシタニ2号墳

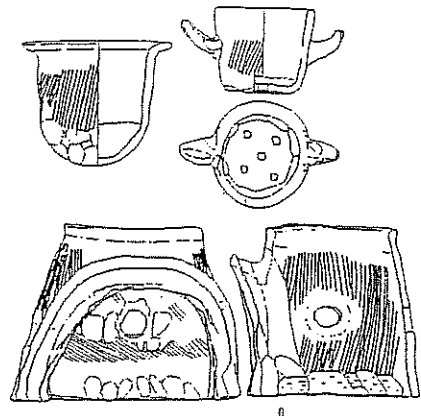
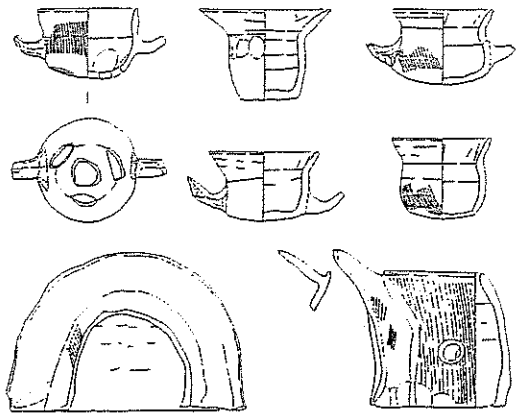


ナシタニ5号墳



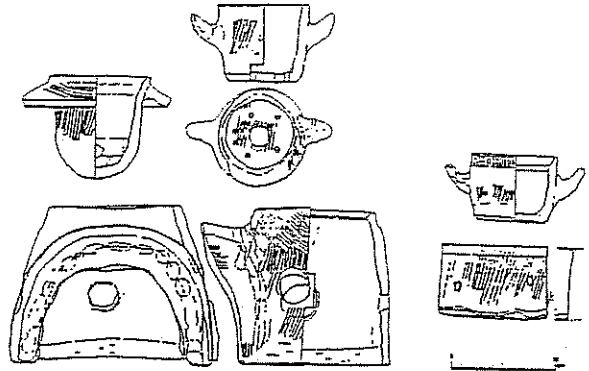
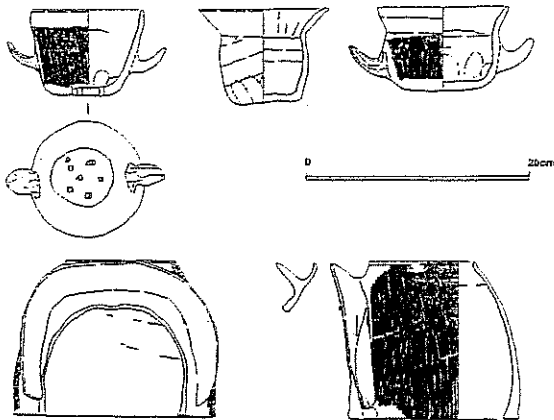
ラギタ2号墳

ミニチュア炊飯具集成①



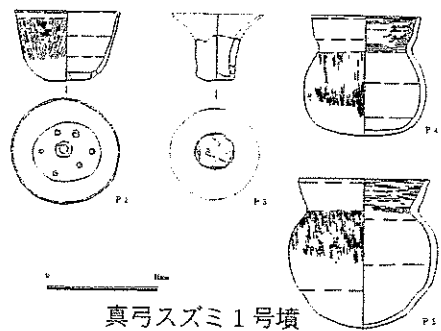
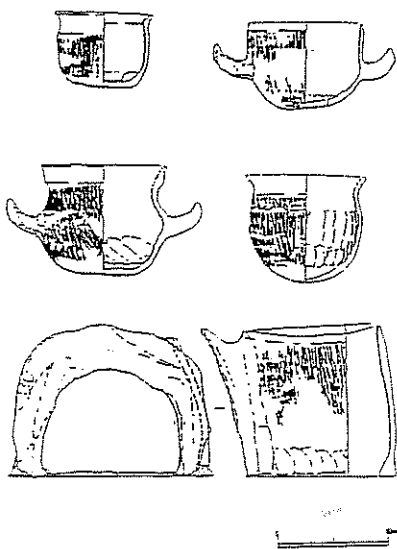
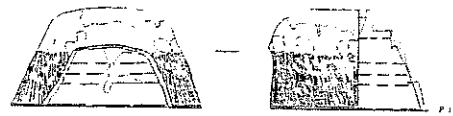
0 20 cm

オイダ山古墳



上5号墳

笛吹遊ヶ丘古墳



真弓スズミ1号墳

沼山古墳

稲村山古墳

ミニチュア炊飯具集成②